

| 教科 | 公民 | 科目（単位数） | 政治・経済（2） | 学年 | 3 | 類型 | 文理共通 |
|-----------------------|---|---|----------|----|---|--|------|
| 学習目標 | 政治や経済の基本原則の理解をはかるとともに、グローバル化の著しい現代を生きる資質を育成する。また、人間尊重の精神に基づいて、人間の存在や価値についての理解と思索を深めさせ、自主的で実践的な態度の育成に努める。 | | | | | | |
| 期間 | 単元（学習内容） | 学習の到達目標 | | | | 自己評価 | |
| 年度初～ 1学期 中間考査 | ○ 経済活動の意義と経済体制 1 人間と経済活動 2 資本主義経済の発展と変容 3 経済活動の主体 | <ul style="list-style-type: none"> ・資本主義経済と社会主義経済のしくみと特徴を比較し、理解できる。 ・資本主義経済の歴史的発展過程を把握して、現状を認識できる。 ・経済活動の主体が、現実にとどのような活動をしているか考えることができる。 | | | | 取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D | |
| 1学期中間～ 期末考査 | ○ 現代経済のしくみ 1 市場経済のしくみ 2 物価の動向 3 国民所得と経済成長 | <ul style="list-style-type: none"> ・市場機構を理解して、市場経済に関する基本的知識を理解できる。 ・物価や景気の動向に対して、その変動の背景を推察して考えることができる。 ・国民所得や経済成長、景気循環の要因を理解し、有効な経済政策を考えることができる。 | | | | 取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D | |
| 1学期期末～ 2学期 中間考査 | 4 財政のしくみと租税 5 金融のしくみと働き ○ 日本経済と福祉の向上 1 戦後日本経済のあゆみ | <ul style="list-style-type: none"> ・財政、租税と金融のしくみとその役割について理解できる。 ・日常の経済生活における、財政や金融の具体的な働きを考えることができる。 ・高度経済成長からの産業構造の変化を資料等で確認し、その問題点について討論することができる。 | | | | 取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D | |
| 2学期中間～ 期末考査 | 2 中小企業と農業・食料 3 公害防止と環境保全 4 消費者問題と消費者保護 5 労使関係と労働市場 6 少子高齢社会と社会保障 | <ul style="list-style-type: none"> ・中小企業の企業活動について考えることができる。 ・公害問題について、その歴史を振り返り、その取組みを確認することができる。 ・消費者問題の具体例を挙げ、消費者のあり方について考えることができる。 ・日本の労使関係を理解し、労働問題について考えることができる。 ・日常に見られる高齢化や少子化の具体的な影響について考えることができる。 | | | | 取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D | |
| 2学期期末～ 年度末 | ○ 国際経済の動向 1 貿易と国際収支 2 国際経済のしくみ | <ul style="list-style-type: none"> ・ボーダーレス化やグローバル化を、身近に話題にすることができる。 ・貿易のしくみと国際収支の各項目の内容を理解することができる。 | | | | 取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D | |
| 使用教材 (教科書・副教材) | 教科書：「政治・経済」（数研出版） 資料集：「最新図説 政経」（浜島書店） 問題集：「スタディノート 政治・経済」（数研出版） | | | | | | |
| 学習方法 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書をしっかり読み、整理ノートに重要事項を書き込む。 ○ 新聞やテレビで得た社会問題について、授業で学習したことを踏まえながら、その問題点や解決策について考えをめぐらす。 | | | | | | |
| 評価方法 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 定期考査 ○ 提出物 ○ 授業態度（出欠状況を含む） | | | | | | |